

## R7校内研究 国語サークルのまとめ

---

国語科の授業における「内谷中学校  
区の9年間を見通した小・中一貫カリ  
キュラムの研究～試行錯誤しながら、  
粘り強く学習に取り組む児童の育成  
～」について

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究  
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

---

# 1 国語科の授業における 研究主題の目指す児童像

# ★「試行錯誤しながら」「粘り強く」取り組むとは

---

- 課題やゴールに向かって、自分やグループで調べ、考えること。
- よりよい作品（作文やリーフレット等の制作物）にするためのポイントを考え、理解し、自分の作品に生かそうとすること。
- ↑の2つを「何回も」繰り返すこと。反復。

試す⇔失敗（気付く！）

- 考えを深める、諦めないために個人ではなく「協働」



# ★「自分で考え」「自分で決める」とは

---

- 1番心に残った場面は？
- 誰とやる？
- 発表(表現)の仕方は？
- テーマは何にする？
- 何を使う(サイトは？アプリは？)等々。

◎様々な方法を経験させていくことが必要。

◎やりやすさ、仲の良さではなく、

自分にとって「**どうすればできるようになるか**」を大切にする。

◎気付きにくいようにルールを。あたかも自分が「やりたい」と思ったことを決めたかのように。(想定しておく。)

今年度の授業改善のテーマ

---

「自分で考え、

自分で決める」

# テーマ設定の理由

---

様々な方法を経験させていくことで試行錯誤する力がつくから。

自分の意思を大切にしながら試行錯誤する力をつけたいから。

目的意識をもって主体的に取り組めるよう、他教科にも活用できるようにするため。

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究  
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

---

## 2 研究授業のまとめ (成果と課題)

○ 日時：令和7年10月3日(金)第5校時

---

○ 授業者：五十嵐 佑奈 (3年3組)

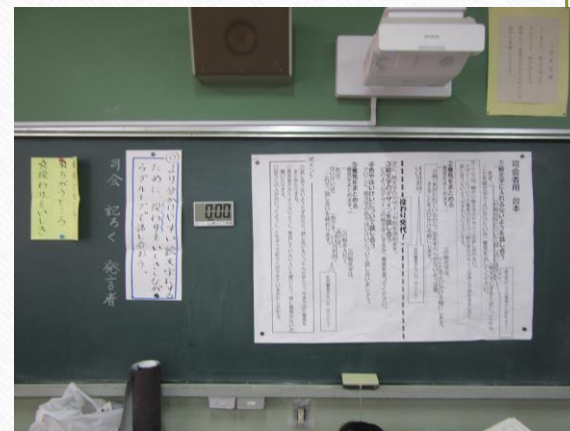
○ 単元名：絵文字でよりよい学校に！～わたしたちの絵文字～

○ 教材名：「わたしたちの絵文字」



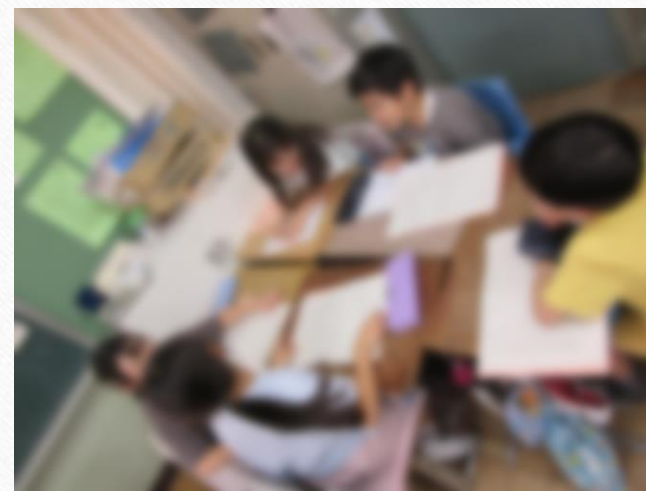
○ 話し合いをする (本時)

- 他者との意見の共有【コミュニケーション力・表現力】
- 意見をまとめる【チームワーク、試行錯誤】
- ゴールを明確にし、自分ごととして考える【主体性】



○ 話し合いのふりかえり

- 話し合いの良かった点・改善点【試行錯誤】



## ○ 成果

- 子どもたちが役割を意識できていた。めあてもとらえられていた。
- 先生が問いかけ、子どもが答えたことを再度深掘りして問いかけ、さらに深い学びを引き出せていた。
- 話し合いと話し合いの間に振り返りがあり、次に意識することができていた。
- 計6回の繰り返しは、次の話し合いをステップアップさせる学びのサイクルを回すためよかったと思う。
- 前回司会や記録を経験した子が、こうしたらいいんじゃないと声をかけていた。自分の経験を共有していた。
- 全員が司会と記録をやること、その意義があった。



## ● 課題

- 話し合う前に役割の確認や視覚的に見てわかる役割札などがあるとよかった。
- 記録者用のプリントの話し合うこと、目的が書けていない。  
→先におさえることが大切。
- 本時の目標→「絵文字を作ること」ではなく、  
「いい話し合いをすること」と教員が理解しておく。
- 話し合いで困ったときに見られる話型が手元にあるとよい。



内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究  
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

---

# 3 国語科の授業改善の ポイント

## ① 目標やゴールを明確にする（学習計画）

- 「試行錯誤」「粘り強く」を意識させるためには、子どもの「やってみたい！」「読み取りたい！」が原動力になる。→子どもの思いを大切に工夫を。
- 「楽しかった」と感じさせたい。答えが1つではないことの面白さを。
- 学びの道筋を明確にすることで大きな脱線を防ぐ。
- 指導要領で系統性を確認（付録4）
  - 教科書通りじゃつまらない。
  - ①評価基準 → ②つけたい力にフォーカス→ ③どんな活動にするか
  - ④実態に応じてやり方を工夫する → ⑤細部を詰める

## ②自己調整につなげる振り返りの充実

- ・振り返りの時間の確保(ルーズブリックが結構よかった)
- ・単元を通しての振り返りを行う(単元を通して高まった力は何?)

## ③国語の授業外でも意識させる

- ・「国語」と「日常」を切り離しすぎない。  
→例:読み取り方に気を付ける(場面では読まない)  
生かせないし、つまらないに繋がる。
- ・学んだことを他教科で生かせるように。  
→書く力、伝える力、話し合い方、まとめる力 等々

## ④効果的なICTの活用を考える

- 「試行錯誤」「粘り強く」学ぶために、情報を共有できる仕組みを。  
→ 明るいカンニング。多面的に考えられるように。理想としては児童だけで動ける仕組み作りをして、教師はファシリテーターとして動けるようにしたい。
- 紙かPCか自分のやりやすい方法を選択できるようにする。
- 効率。提出。その他ICTの利点を考える。
- 情報が増えやすいので、活用能力が必要。必要なデータを選択する。  
カードの色分け、提示のタイミング等、シンプルでわかりやすい流れが必要。

内谷中学校区の9年間を見通した小・中一貫カリキュラムの研究  
～試行錯誤しながら、粘り強く学習に取り組む児童の育成～

---

## 4 国語科における カリマネの視点

# 主体性

- ゴールを明確にし、学習計画を立てる。
- 見通しをもって取り組む。
- 計画の見直しを振り返ることができる。【自己調整力】
- 低学年においては、自己選択をさせることができる。

# 試行錯誤

- 話合いの良かった点・改善点の振り返り。
- 作文などの推敲。
- 説明文、観察文、物語文では、友達の意見と自分の意見の共通点相違点を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- 作文などの作成の際、教科書をもとに自分のより良い表現を検討する。  
→ICTの効果的な活用ができた。
- より伝わりやすいような相手意識、目的意識を考えた文章構成をしたり話をしたりする。
- グループ内での意見をまとめる。

# 表現力

- 新たな言葉を使った、場面にあった活用する力をつける。
- 効果的な画像・動画の活用を学べるような言語活動をさせる。
- 単元のねらいによって表現方法の設定し選択させた。
- 他者との意見の共有。

# コミュニケーション力

- 低学年 型を学ぶ → 中学年 発展 → 高学年 型を破る。
- 学級会・特別活動などにつなげられるような言語活動を学ぶ。
- 相手の想いを汲み取ってあげる力をつける。
- 他者との共通点・相違点を見つけ、共感できる能力をつける。
- 他者の色々な意見に触れ、他者を認め自分を振り返ることができる。

# チームワーク

- コミュニケーション力を生かして、一つのものを作り上げる活動を行う。
- まわりを見て判断する力、アドバイスや自分の推敲をする能力をつける。
- 新聞やポスターをつくる際にグループで目標に向かって役割分担して調べたり書いたりできる。
- 他者との意見の共有 意見をまとめる。